

祈 禱 会

植竹ヨネ子先生

『主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。
あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いを
わきまえられます。

あなたはわが歩むをも伏すをも探し出し、わがもろもろの道を
ことごとく知っておられます。

わたしの舌に一言もないのに、主よあなたはことごとくそれを
知られます。

あなたは後ろから、前からわたしを囲み、わたしの上のみ手をおかれます。

このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。

これは高くて達することはできません。

わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。

わたしはどこへ行ってあなたのみ前をのがれましょうか。

わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。

私が陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます。わたしが
あげぼのの翼をかって海のはてに住んでも、
あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたの右のみ手はわたしを
ささえられます。

「やみはわたしをおおい、わたしを囲む光は夜となれ」とわたしが
言っても、あなたには、やみも暗くはなく、夜も昼のように
輝きます。

あなたには、やみも光も異なることはありません。

あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立て

られました。

わたしはあなたをほめたたえます。

あなたは恐るべく、くすしき方だからです。

あなたのみわざはくすしく、あなたは最もよくわたしを知ってお
られます。

わたしが隠れた所で造られ、地の深い所でつづり合わされたとき、
わたしの骨はあなたに隠れることがなかった。

あなたの目は、まだできあがらないわたしのからだを見られた。

わたしのためにつくられたわがよわいの日のまだ一日もなかった
とき、その日はことごとくあなたの書にしるされた。

神よ、あなたのもろもろのみ思いは、なんとわたしに尊いこと
でしょう。

その全体はなんと広大なことでしょう。

わたしがこれを数えようとすれば、その数は砂よりも多い。

わたしが目ざめるとき、わたしはなおあなたと共にいます。』

(詩篇139抜粋)

何かあるといつもこの詩篇にかえってきます。主イエスキリストの
故に、わたしは神様の大きな懐(ふところ)の中にいる平安をおぼえ
ます。

1日の、1週間の歩みの中で話したいこと分かち合いたいこと、
一杯一杯あることでしょう。

ぜひ役員さまだけと言わず、みなさま木曜の祈禱会で、話して
下さい、私達家族です、神様の家族です。凡てを知っていてくだ
さる主の許で、祈り合いおぼえ合い熱い心を主から頂きましょう。
毎朝今週の祈禱会のため、主を見上げています。